

2017年11月9日
日揮株式会社

2018年3月期第2四半期
決算説明会における質疑応答（2017年11月9日）

※決算説明会開催日（2017年11月9日）時点の情報に基づく内容です。

質問	回答
粗利益率が1Q（4月－6月）の7.5%から、2Q（7月－9月）では6.9%と若干落ちている。要因を教えてください。	1Qは、触媒・ファイン事業が非常に好調であり、高採算な製品の売上・利益が1Qに前倒しで計上される等、全体の利益率を押し上げていた。総合エンジニアリング事業の、2Qの粗利益率は、1Qより若干良い水準となっている。
LNG案件の状況に関し、5月の前年度通期決算発表時点から見方は変わったか？	半年前から状況が変わったということは特段ないが、世界各地域における複数の大型LNG計画において、オイルメジャーが戦略的な動きを見せ始めたと感じている。
本日の説明の中で、FPSOに関する話が出ていた。まずは、傭船事業に進出し、O&M等に関する知見を蓄積していくとの方針と理解したが、将来的にはFPSOのEPCも視野に入れているのか。	まずは、既存プレイヤーとの協業を通じて知見を蓄積し、その上で次のステップに進んでいきたい。
クウェートとサウジアラビアで遂行中の案件の進捗状況に関し、アップデートをお願いしたい。	両案件とも、来年度の完工に向けて着実に進捗している。

<p>イクシス LNG プロジェクトとヤマル LNG プロジェクトの状況について教えて欲しい。</p>	<p>両案件とも、順調に進捗していると認識している。 イクシス LNG プロジェクトについては、年度内の生産開始に向け、建設工事が最終盤に入っている。ヤマル LNG プロジェクトについては、第 1 系列は年内に完工予定。第 2 系列は 2018 年度、第 3 系列は 2019 年度に完工の予定である。</p>
<p>説明の中でもあったプロジェクト管理能力の強化に関し、具体的な事例等があれば説明をお願いしたい。 取り組みに関し、定量的な効果や成果がでる時期の見通しがあれば教えて欲しい。</p>	<p>プロジェクトマネージャー (PM) の数、イコールエンジニアリング会社のキャパシティと考えており、その育成に力を入れている。中小案件は PM の育成の場として有用であり、海外グループ会社の案件も含め、機会の確保に努めている。 プロジェクト管理能力の強化については、何か特定の管理システムを構築すれば良いというものではなく、定量的な効果測定や成果が出る時期を示すことは難しい。地道な取り組みの継続が重要と認識している。</p>
<p>1 兆円規模の売上高を目指すなかで、オフショアおよびインフラ分野の売上比率の目安等はあるか？ また、オフショアやインフラ分野の強化・拡大分野に関し、どういった粗利益率の目線を持っているか？</p>	<p>この先の 5 年間については、大型 LNG プロジェクトの受注が、売上高 1 兆円以上を達成する要件となるが、並行してオフショアやインフラの強化・拡大に努めていく。中期経営計画でも示した通り 2025 年度までに全体の営業利益のうちインフラ分野で 20%程度を稼ぐ計画としている。 利益率に関しては、分野毎に多少の違いは出てくるであろうが、全体で 8%台の粗利益率を確保していきたい。</p>
<p>ビックデータを活用したプラントの操業支援サービスの状況について教えて欲しい。</p>	<p>操業支援サービスは継続して進めており、この取り組みによって得た知見が EPC 事業にフィードバックされることを期待している。また、AI 等の活用による設計業務の効率改善についても検討を進めている。</p>

以上